

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！



日刊 動労千葉

85. 12. 28

No. 2129

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二五三五六・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

「やればできる」ことをさし示したわが第一波

津田沼支部 綾部光男

内外情勢のすさまじい危機と激動のなかで明け暮れたこの一年間は、動労千葉の路線の正義性をよりいつそう不動のものとし、「三里塚と国鉄で中曾根を打倒する運動」の真価を発揮する闘いそのものであつたと言えます。

とりわけ国鉄史上初めての不当処分をはじめ、デマとペテンでぬりかためられた分割・民営化攻撃に圧殺され続けてきた国鉄労働者の最先頭にたち分割・民営化の正体をあばき日帝中曾根体制が真に恐れる闘いとして大弾圧体制をぶち破り、11・28～29ストを打ちぬいたことは、やれどできるんだという自信と確信を倍加させるものであつた。

この歴史的な闘いを担うことができたわが津田沼支部は、本当に労働者が怒り、奴隸の

動労千葉の皆様へ

動労千葉の十一・二八・二九のストライキに心から敬意を表します。首をかけ家族をもかけた偉大な闘いに連帯し、あとに続く闘いを必ずつくり出していく決意です。

動労千葉をどんなことがあっても守りぬきます。

共にがんばりましょう。

十二月十八日

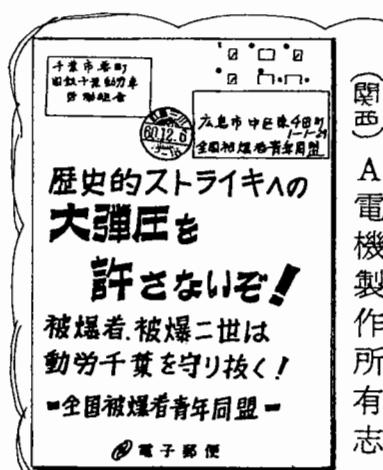
必死で闘えば
中曾根おそるるに足らず

佐倉支部 田中龍美

道を拒否し、決意し、団結し闘うならば必ず勝利できるということを教えてくれた。この一年間の闘いを教訓化しようではありませんか。こうした成果のうえにたつて中曾根や国鉄当局の先兵となり、セクト的に生き残るために、國労・動労千葉の首切りを要請する動労「本部」革マル追放・一掃の闘いも決定的に重要な役割を果たすものとなっています。

われわれは、今日の情勢に打ち勝てる支部の団結をますます強化し、11・28～29ストへの重処分攻撃に対しても徹底的に闘うとともに何んとしても三里塚・国鉄決戦勝利へ年末から86年を重大な決意をこめて第2波・第3波へと闘いぬいていきたいと思います。

組織破壊攻撃を粉碎せよ！



決めて、国民がのぞんでいるか

のようになつてゐるが、分割・

民営化の前に一度、国鉄にまか

せたらどうだ・と「五〇〇〇万人署名」運動をやるなかで、私たち

は支持する厚い層のあることを

ハダで感じとつてゐる。

そして、この一年間でつちか

つた貴重な経験を今後の運動の糧にしていこう。

ある雑誌でこう言つています。

「・・・国鉄をここまで追い込んだ責任者を出せといいたい。国鉄総裁は会社でいうと課長ぐらいで、社長や重役は田中だつたり鈴木だつたり銀行や新日鉄の偉い人だ。そうした真犯人をばかしておいて、民営化で財界は最後のもうけとして大都市の真ん中にある国鉄の敷地を狙つている・・・」

中曾根は、この大問題を茶ぼうず審議会で

作家の井上ひさしさんが国鉄問題についてある雑誌でこう言つています。

「・・・国鉄をここまで追い込んだ責任者を出せといいたい。国鉄総裁は会社でいうと課長ぐらいで、社長や重役は田中だつたり鈴木だつたり銀行や新日鉄の偉い人だ